

28年9月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成28年9月1日～ 28年9月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
9月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/9月	10月	11月
仕入 動向	国産材製材品	25.0	16.7	△ 8.3
	外材製材品	25.0	8.3	△ 8.3
	構造用集成材	10.0	20.0	△ 10.0
消費 動向	国産材製材品	20.0	20.0	0.0
	外材製材品	25.0	16.7	△ 8.3
	構造用集成材	30.0	10.0	△ 10.0
在庫 動向	国産材製材品	△ 8.3	0.0	△ 16.7
	外材製材品	8.3	△ 8.3	△ 16.7
	構造用集成材	△ 20.0	△ 10.0	△ 10.0

・プレカット部材の仕入れは9月、10月の増加が、11月は減少。

・プレカット部材の消費は9月、10月の増加が、11月は横ばいないし減少。

・プレカット部材の在庫は総じて減少傾向。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	28/9月	10月	11月
受注	33.3	16.7	△ 8.3
加工	41.7	25.0	△ 8.3
受注残	△ 8.3	8.3	△ 8.3

・プレカット工場の受注及び加工は9月、10月の増加が、11月は減少。

・受注残は9月の減少が、10月増加するが、11月は減少。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

・仕入は、国産材の出材が少なく値上がり要因、外材は変化なし。消費及び在庫は、低水準で推移。

・仕入は、国産材製材品の比率を上げているため増加、外材製材品は在庫の少なさから増加。消費は、羽柄材関係が売れ行きが良いため増加、構造材関係は今ひとつのため消費は横ばい。国産材製材品の在庫バランスはコントロール可能。外材製材品はアイテムごとの消費量がその時々で大きく異なるため増加気味に。

(受注動向)

・大きな変動なし、低水準で推移。

・例年からいって、9月、10月は問題なし。11月からどれだけ落ちるかが問題。

・受注は順調。